

1997年脳死からの提供を認めた臓器移植法が施行され20年が経とうとしています。現場はどう変わってきたのか？日本の臓器提供医療における今後の光(希望)となるトピックスを集めてみました。

### 臓器提供の希望者 20年で43%へ

臓器移植法施行時から、地道に「意思表示を明記しよう」という普及活動が継続されてきました。当初は負のイメージを抱く方も多かったのですが、終末期の一つの選択肢としての理解も広がり、内閣府の意識調査で「脳死時に臓器を提供してもいい」という答えが増えてきています。



### 一つでも多く！希望が叶う提供病院を

国民の意識が少しずつ上がっているものの、進んでいないのは脳死判定と臓器摘出ができる体制の整った提供病院の数です。せっかく家族が提供を申し出ても、病院の都合で実現できないケースもあります。こうした現状を打開しようと、病院と県などが連携し、病院側の負担を軽減することで希望が叶えられる体制を目指す取り組みが進んでいます。



大学病院や救命救急センターなど  
全国約900施設のうち  
臓器提供を実現できる提供病院 約3割

※小児が可能な施設も含める

### キラキラ NEWS

### 移植を待つ方々に希望の光を

10月16日の夜、福岡タワーにグリーンリボンライトアップが実現！

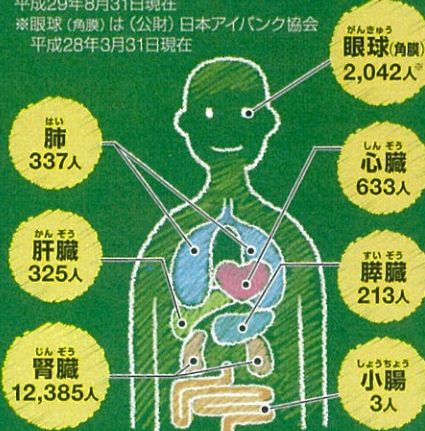
臓器移植法20周年を機に「移植を待つ方々に希望の光を届けよう！」をスローガンに、多くの方々の支援や想いが一つになって、福岡市の福岡タワーに美しい光が点灯しました。貴重な夜の光に、街の人が立ち止まり、移植医療の将来を明るく照らしてくれますように――



最新 移植でしか回復できない患者さんが待っています。

### 臓器移植希望者登録数

(公社)日本臓器移植ネットワーク  
平成29年8月31日現在  
※眼球(角膜)は(公財)日本アイバンク協会  
平成28年3月31日現在



### 【2限目】

## Why?

# なぜ？「臓器移植」が必要ななの？

日本で臓器の移植希望登録をしている人は、およそ1万3千人いますが、臓器提供が少なく、多くの方が移植を待ちながら亡くられています。2008年5月のイスタンブール宣言により海外で臓器を求める動きに規制がかかり、移植が必要な人の命は、自国で救う努力が必要になっていきます。

海外に渡って移植手術する道も今はさびしくなっています。



### 【1限目】

## What?

# なに？「臓器移植」って？

臓器移植とは、重い病気や事故などにより臓器の機能が低下し、移植でしか回復の見込みがない人と死後に臓器を提供してもいいという人をつなぐ医療のことです。臓器を提供してもいいという人の善意によって成り立っています。臓器移植医療では、臓器提供者を「ドナー」、臓器移植者を「レシピエント」と呼んでいます。



「臓器を提供しても良い」という善意によって成り立つ医療の一つです。

### +Check

臓器提供は脳死と心臓死の二通りがあります。死の種類によって、摘出できる臓器が変わります。詳しくは5ページを読んでみよう。

### 臓器移植医療の今

最近ニュースなどで臓器移植医療の報道を目にしませんか。2010年に改正臓器移植法が施行され、以前は年間10名ほどだった脳死下の臓器提供が年間約60例ほど行われるようになりました。二見良い傾向のように見えますが、反面、心停止下における提供が減少しており、結果的に提供者の総数は平行線のまま。日本の臓器提供は欧米諸国と比較すると圧倒的に少ない現状は変わっていません。

欧米に比べると日本の臓器移植医療はまだまだ少ないんだね。



近年行われた世論調査では、4割以上の方が「提供しても良い」と考え臓器提供を希望する人は増えていきます。それでも実際の臓器提供が増えないのは、日本にその意思を活かす仕組みが整っていない実情があるからです。善意をつなげる仕組みを整え、なおかつもっと移植医療の正しい知識が広がることで、善意で救われる命が増えると言われています。



1997年脳死からの提供を認めた臓器移植法が施行され20年が経とうとしています。現場はどう変わってきたのか？日本の臓器提供医療における今後の光(希望)となるトピックスを集めてみました。

臓器提供の希望者 20年で43%へ

臓器移植法施行時から、地道に「意思表示を明記しよう」という普及活動が継続されてきました。当初は負のイメージを抱く方も多かったのですが、終末期の一つの選択肢としての理解も広がり、内閣府の意識調査で「脳死時に臓器を提供してもいい」という答えが増えてきています。



一つでも多く！希望が叶う提供病院を

国民の意識が少しずつ上がっているものの、進んでいないのは脳死判定と臓器摘出ができる体制の整った提供病院の数です。せっかく家族が提供を申し出ても、病院の都合で実現できないケースもあります。こうした現状を打開しようと、病院と県などが連携し、病院側の負担を軽減することで希望が叶えられる体制を目指す取り組みが進んでいます。



大学病院や救命救急センターなど  
全国約900施設のうち  
臓器提供を実現できる提供病院 約3割

※小児が可能な施設も含める

キラキラ NEWS 移植を待つ方々に希望の光を

10月16日の夜、福岡タワーにグリーンリボンライトアップが実現！

臓器移植法20周年を機に「移植を待つ方々に希望の光を届けよう！」をスローガンに、多くの方々の支援や想いが一つになって、福岡市の福岡タワーに美しい光が点灯しました。貴重な夜の光に、街の人が立ち止まり、移植医療の将来を明るく照らしてくれますように――



どの気持ちも、守られます。

[ 4 限 目 ]

When?

いつ？意思表示はどうしたらいい？



意思の表示方法はいろいろあります。詳しくは6ページを見てみよう。

意思表示の方法は①インターネットで意思登録サイトに登録する②健康保険証や運転免許証の裏面の意思表示欄に記入する③意思表示カードに記入する方法などがあります。

現在は本人の意思が不明な場合でも、家族の承諾で臓器提供が可能です。意思を表示していないと、家族が悩んだり迷ったりすることが考えられます。インターネットやいつも所持するものに意思表示しておくことは、家族のためにも役立ちます。



臓器提供者(ドナー)になるには(生前に提供の意思表示があり、かつ家族が承諾した場合)と(生前の意思表示がなく、家族の希望で提供する場合)の2通りがあります。生前に本人が提供を拒否する意思表示をしている場合は、家族が希望しても提供はできません。あなたは最期を迎える時、誰かの命に役立ちたいですか？生きているうちに家族と話し「提供する」「提供しない」意思を表示しておくことが大切です。

■ 移植に関するデータ (2017年1月~8月)

移植希望登録者数 (8月現在)	13,713人
脳死下で提供された方	49人
心臓停止後に提供された方	26人
移植を受けた方	255人

(公社) 日本臓器移植ネットワークHPより

本人が拒否の意思表示をしていない限り、家族の承諾で臓器提供が可能です。



[ 3 限 目 ]

Who?

だれが？臓器提供者になるの？

臓器移植よくあるQ&A

- Q 臓器提供にかかる費用の負担はある？
- A 臓器提供者には臓器提供にかかる費用は一切かかりません。また、善意による提供なので葬儀の費用や謝礼が支払われることもありません。
- Q 臓器の摘出にかかる時間はどのくらい？
- A 提供する臓器によっても変わりますが、心臓、肺、肝臓、腎臓、脾臓、眼球などのすべての摘出には3~5時間程度を要します。
- Q 遺体は、どんな状態で戻ってくるの？
- A 摘出手術の傷は残りますが、身体は礼意をもって丁寧に扱われ、傷口は縫合し、ご遺体はきれいな状態でご家族にお返しします。
- Q 病気がかかっており、薬を飲んでいますが、臓器を提供できますか？
- A 実際に臓器提供のお申し出を家族からいただいた時点で、いろいろな検査をし、提供ができるかどうか医学的な判断をいたします。過去や現在の健康状況や病歴にかかわらず、現在の意思を表示しておきましょう。